

**Contents**

【全体動向】8・30米輸入反対キャンペーン・「2006生命平和環境農業大祭り」協同開催に一致

【韓国生協連合会】icoop10周年記念事業委員会発足・北朝鮮水害住民に送るラーメン船積・

韓国生協研究所月例フォーラム

【韓国女性民友会生協】2006女性生産者消費者ワークショップ・水害生産地へ組合員カンパ

【生協全国連合会】小若順一氏招待講演会・生協の民衆交易

【ハンサルリム】青少年生態農村活動・ハンサルリムの窓からみた農村現実連載

**【全体動向】**

**8・30 輸入米反対キャンペーンを開催します**

今年4月から毎月実施している輸入米反対キャンペーンが8月30日には、全国18の都市で開催されます。各都市の地域生協と市民団体が協同で行う今回のキャンペーンでは、飲食店米の原産地表示制の実施、輸入米の入札業者の資格強と入札情報の公開、輸入米の混入を防止できるよう糧穀管理法の改正、輸入米の不正流通への処罰強化を挙げて署名を集めます。

**10月29日、「2006生命平和環境農業大祭り」を開催します**

毎年10月頃になると多くの生協では生協祭りが開かれましたが、今年韓国の首都圏では、環境農業団体連合会（環農連）の主催で、会員団体協同の「2006生命平和環境農業大祭り」を開くことに一致しました。WTO米協商と韓米FTA協商により食の安全と韓国農業が危ぶまれる世の中、その代案として親環境農業の普及と消費者の賢い選択についてより一層国民にアピールするためです。環農連は親環境農業に携わる生産者団体（23）、消費者団体（8）、研究機関（4）が集まった韓国最大の親環境農業関連のNGOです。1994年設立以来、政府のカウンターパートナーとして様々な親環境農業政策樹立に関わってきました。今まで各会員団体がバラバラに開かれた祭りを大同祭りとして束ねたのは大きな成果と言えます。

**\* 「2006生命平和 環境農業大祭り」**

日時：10月29日（日）10時～18時

場所：ソウル大学路一帯

企画プログラム概要：記念式、文化公演以外、参加者イベントは下記

| ゾーン   | テーマ                   | イベント内容  |
|-------|-----------------------|---|
| マダン一、 | ご飯は天である - 命を頂く農と食     | 新環境農業紹介、<br>新環境農業クイズ、<br>試食会  |
| マダン二、 | 命を活かせる農 - 循環と共生       | 会員団体の参加イベント、<br>循環有機畜産祭り、<br>産直運動の広場、<br>摂生の神秘と提案                         |
| マダン三、 | 代案とより良い世の中を - 代案運動の紹介 | 都市農夫運動、地域貨幣運動、ワー<br>カーズ運動、親環境学校給食、代案<br>教育運動、代案生活財の紹介、共同<br>体運動、市民社会運動ブース |
| マダン四、 | 共に生きる世の中、豊かな平和の世の中    | 生命平和ソツテ(鳥居の起源)作り、<br>平和運動団体ブース運営、<br>暮らしの中でできる平和実践紹介                      |

展示：伝統農法、親環境有機農業パネル

映像・写真展：キューバ有機農業視察のビデオ上映、ヨーロッパ先進農業視察写真展、

親環境農業ドキュメンタリー上映、環境ドキュメンタリー「田んぼで生命に出会う」上映

新環境農業優秀自治体広報ブース：全羅南道、京畿道陽平郡、江原道華川郡、忠清南道洪城郡

市民社会運動団体ブース：学校給食運動本部、子どもの健康のための国民連帯

新環境農産物直売所

#### 環境農業団体連合会 ([www.kfsao.org](http://www.kfsao.org)) 会員団体

**生産者団体** プルンドゥル営農組合法人、済州親環境農業団体連合会、全南親環境農業人連合会、ウ  
リミルを活かす運動本部、韓国佛教善農会、尚州環境農業協会、サムズク農協、北漢江有機農運動  
連合、洪城文党環境農業マウル、洪城プルム生協、ハンマウム共同体、韓国有機農業協会、正農会、  
全国農業技術者協会、原州生協、南農営農組合法人、コサム農協、ヤマギシズム実現地、八堂生命  
サルリム、韓国カトリック農民会、慶北親環境農業人連合会、江華島環境農業農民会、21世紀営  
農組合法人

**消費者団体** 韓国女性民友会生協、生態幼児共同体、ハンサルリム、韓国生協連帯、住民生協、生協  
全国連合会、経実連環境農業実践家族連帯、経実連正農生協

**研究機関** ドゥレ親環境農業研究所、インドラマン生命共同体、全国帰農運動本部、フッサルリム

#### 【韓国生協連合会 <http://www.icoop.or.kr>】

「Icoop10周年記念事業推進委員会」を立ち上げました。

2007年は(社)韓国生協連帯が事業を始めた1997年から10周年となります。最初は、物流  
の統合を図った小さな単協の連合組織が(社)韓国生協連帯(事業組織)韓国生協連合会(地  
域生協の運動ネットワーク)、ウリ農業守り相助会(災害・福祉扶助事業)、KOWM(親環境生

産物のオンライン御売り)、親環境有機食品流通認証協会、韓国生協研究所と、様々なミッションを随行する組織に分化して発展してきました。それで、10年間の運動と事業の経過を組合員、生産者、職員が共有し、これからのビジョン作りを推進するために、「icoop10周年記念事業委員会」を発足させました。この委員会は消費者委員18名、生産者委員3名、役職員から5名、指導委員5名、計27名から構成されており、2008年3月までを活動期間とします。8月10日、開かれた発足式では、申ボクス仁川生協理事長が委員長に選出され、「10年間の運動と事業評価小委員会」、「ビジョン作り小委員会」、「記念イベント企画小委員会」に分かれて委員会活動を展開することが決まりました。

<http://www.icoop.or.kr/v2/announce/view.php?code=announce&homepage=003&page=1&number=604&keyfield=&key=&no=154&fid=158&thread=A>

### **北朝鮮の水害民に助け合いを！北朝鮮の住民へウリミルラーメンを送りました。**

韓国生協連合会と女性民友会生協は、8月23日、3万個の生協のラーメン(米ラーメン1万個、ウリミルラーメン2万個)を仁川港で船籍し、北朝鮮の水害住民に送りました。7月中旬、朝鮮半島の中部を襲った大雨による水害は韓国でも大きかったですが、北朝鮮では死亡549名、失踪295名、負傷3千余名、家屋破壊2万軒という多大な被害の上、緊急支援と復旧作業が遅れて水害住民は現在も厳しい状況に置かれています(「ウリ民族助け合い運動本部」の発表)。韓国生協連合会では、同じ民族の苦難を見過ごせないという助け合う協同の精神に基づき、組合員からカンパを募ってラーメン3万個(2,100万ウォン分)を「ウリ民族助け合い運動本部」を通して北朝鮮の水害住民へ支援することにしました。23日、仁川港を出発した船は3日後南浦港に到着して、8月末までは平壤市、咸境道の水害住民へ届けられます。

<http://www.icoop.or.kr/v2/announce/view.php?code=announce&homepage=003&page=1&number=611&keyfield=&key=&no=156&fid=160&thread=A>

### **(社)ウリ民族助け合い運動本部 Korean Sharing Movement**

北朝鮮の深刻な食糧不足が海外に知られ、緊急支援の呼びかけがあった1996年6月、カトリック教会、プロテスタント教会、仏教界の6つの宗団と市民団体、企業が参加した国民的運動組織として創立された。以来、人道的支援と南北民間交流事業を通じて南北間の対立を解消し、民族の和解と共存を目指す事業と活動を展開している。現在は、緊急支援に留まらず、北朝鮮の人道的状況の改善を図ることを目標にし、農業と保健医療分野のインフラ構築事業を重点的に行う。農村農業委員会、製薬工場事業委員会、病院現代化事業委員会、高麗人事業委員会、市民参加委員会を置いている。

<http://www.ksm.or.kr/>

### **韓国生協研究所第1回月例フォーラムを開きます**

韓国生協研究所は、次のように第1回月例フォーラムを開催します。

- \* テーマ：持続可能なフードシステム形成と生協の課題
- \* 日時：8月29日(火)14時~17時
- \* 場所：ペジエ大学校学術支援センター
- \* 発表：鄭銀美(韓国農村経済研究院環境農業チーム責任研究員)

- \* 座長：金周淑教授（韓国生協研究所所長）
- \* パネラー：趙ウォンラン（農林部親環境農業課課長）、李ナムソン（ハンサルリムソウル常務理事）、全ソンド（全国農民会総連盟事務処長）、鄭グンス（韓国生協連合会副会長）、鄭ヒョンヨン（洪城ブルム生協専務理事）

<http://www.icoop.re.kr/>

【韓国女性民友会生協 <http://www.minwoocoop.or.kr/>】

**2006 女性生産者・消費者ワークショップを実施しました**

韓国女性民友会生協は、8月17日～18日、「2006 女性生産者・消費者ワークショップ」を開催しました。このイベントは生産者と消費者が相互理解を高めるため、又女性の連帯の場として毎年の夏開かれるもので、4回目となる今年は、全国から女性生産者43名、消費者38名が参加しました。初日は、共同物流を行っている（社）韓国生協連帯の物流センターを見学し、野菜類の検品とセット作業の様子を見学しました。夕方には、互いの辛さ、願いを打ち明ける疎通とリラックスに繋がるダンスセラピーや瞑想時間を持ちました。続いて女性学講義、綿ナフキン作りなど、日常ではめったにできない体験を共にしました。

[http://www.minwoocoop.or.kr/bbs/board.php?bo\\_table=notice&wr\\_id=90](http://www.minwoocoop.or.kr/bbs/board.php?bo_table=notice&wr_id=90)

**水害生産地への組合員カンパ2,900万ウォンが集まりました**

7月大雨により多大な被害を負っている生産地へ送る組合員カンパの結果2,900万ウォンが集まりました。

【生協全国連合会 <http://www.co-op.or.kr/>】

**小若順一氏招待講演会「抗生剤中毒実態と克服方案」を開きます**

生協全国連合会と環境農業団体連合会は、8月30日、10時～12時、国家人権委員会にて日本の食品と暮らしの安全基金の小若順一氏を招いて講演会を開きます。生協全国連合会は、小若氏の著書「食べ物から広がる内性菌」、「使うな。危険！」を翻訳し、国内へ紹介したことがあります。

[http://www.co-op.or.kr/file/kong.htm?sel\\_mode=view&sno=147&wh=kong](http://www.co-op.or.kr/file/kong.htm?sel_mode=view&sno=147&wh=kong)

**生協の民衆交易がハンギョレ新聞に紹介されました**

生協全国連合会会員団体のドゥレ生協連合会が行っている民衆交易事業が日刊紙ハンギョレ新聞7月26日字に紹介されました。ドゥレ生協連合会が100%出資して設立した（株）APNET（Alternative People's Network for Peace and Life）は2004年からフィリピンのATG（Alternative Trade Group）との間民衆交易を開示しました。交易商品は、マスコバト糖。APNETは500g袋2000ウォンとするマスコバト糖の販売価格のうち、200ウォンをネグロス農民の自立基金として積み立てして2005年には1400万ウォンをATG傘下の生産者支援組織（ATFI）へ伝達しました。2004年17tだった交易量は、2005年には60tまで増加しました。なお、2006年にはパレスティナのオリーブ油も7500ピン輸入してきました。2006年予想売上げは3億～4億ウォン。まだまだ小さな規模ではありますが、民衆交易は韓国でも広がりを見せています。

<http://www.co-op.or.kr/data/coopnews2.htm?wh=relation&sno=80>

【ハンサルリム <http://www.hansalim.or.kr>】

### 「ハンサルリム青少年生態農村活動」に行ってきました

ハンサルリムソウルの青少年会員 23 名は、7月31日～8月2日、「私たちの知らない農村」というテーマの農村活動をハンサルリムの平飼卵の産地ヌンピサンマウルで行いました。この農村活動は、昔から夏休みになると大勢農村に行き農作業を手伝った大学生農村活動に因り、生産者から教わって様々な農作業に参加しながら生産者の苦勞と労働の神聖さに触れる体験活動です。参加者たちは「ご飯は天である。独り占めできない天のように、ご飯も互いに分かち合っで食べる」というハンサルリムのスローガンに従い、みんなで洗濯、炊事をやりながら生活します。今回の仕事は鶏糞の掃除、大豆畑、唐辛子畑の草取り、卵拾いなど。汗を流して農作業をした後は、生産者との様々な交流の時間を過ごしました。

<http://www.hansalim.or.kr/>

### 「ハンサルリムの窓からみたウリ農村現実 農夫症、ハウス病をご存知ですか？」

ハンサルリムの雑誌に連載されている農村シリーズの4回目は、農民薬局の調査データの報告です。韓国では1990年全羅南道羅州農民薬局を初めに、海南、花順、尚州、洪川、井邑と6地域に農民薬局ができました。農民薬局は「健康な農民、健康な社会」を目指して、薬の販売以外に農民の病気に對する調査活動、健康教室開催、相談活動などを行い、現場の調査データに基づき、医療制度改善に向けて努力してきました。農薬使用が集中している時期には、地域の農会と連携して農薬中毒予防教室を開き、注意を呼びかける事と共に農薬よりも被害が多い農薬害毒剤(PAM)の危険性を広報、販売中止をさせたこともその一例です。

1992年農民薬局が農民995名を対象にして調査した「農薬使用の実態と中毒分析」は、社会的に大きな反響を及ぼしました。回答者の67.5%が農薬散布時吐き気や目眩、皮膚の発疹を経験していると答え、慢性中毒にみえる症状を訴える回答者も41.3%だったのです。

又、以前から知られていた農夫症といった症状(腰痛、関節炎、体型の変形、消化不良など)以外にも新しく「ハウス病」と言われる症状も深刻であることが判りました。高温多湿なハウスの中では酸素より窒素、メタン、炭酸、アンモニアが多くなり、長時間農作業をすると脳にも極深な疲労を与えます。ハウスで長時間作業した生産者たちは、主に顔の皮膚発疹、鼻つまりなどのアレルギー症状及び目眩、呼吸困難、体が重い、記憶力の衰退を訴えます。

わが国には総合的な農薬安全管理機関もないことから、政府は専門機関を選定し、農薬に対する安全教育と管理監督を行うようにと、農民薬局は対策を促しています。

<http://www.hansalim.or.kr/zin/>

### 【編集後記】

夏は暑くて熱くて力を尽くしたという季節だということを私は、大学生の時覚えました。大学4年間、夏休みになると農村活動に参加していました。一週間、あるいは二週間農村の協会や公民館などで泊まりながら日中は農作業の手伝い、夕方は農家を訪問し、暮らしの話を聞きます。1980年代には学生運動が組織的に農村活動を展開して、数千人規模の大学生が参加しました。当時の学生運動は、大学生の農村活動を通じて学生運動への支持と理解を、又貧困に苦しむ農村社会と連帯したいと思っていました。今の風に言えば学生運動のSR活動？真っ暗の夜道を照らす月の明るさ、輝く星、そして切ない農家の事情、夏になると汗や涙、毎年怪我で血を流したその時が思い浮かびます。

(文責及びお問い合わせ：韓国生協連合会 国際チーム、金亨美、[chleekim@yahoo.co.kr](mailto:chleekim@yahoo.co.kr))